

議 事 録

会 議 名	第 3 1 回 宇都宮市環境審議会 議事録	
開 催 日 時	平成 2 7 年 1 1 月 3 0 日 (月) 午前 1 0 時 ～ 午後 1 2 時 3 0 分	
開 催 場 所	宇都宮市役所 本庁舎 1 4 階 1 4 A 会議室	
出 席 者	環境審議会 委 員	金沢力委員, 篠崎圭一委員, 福田智恵委員, 細谷美夫委員, 伊藤直次委員, 今井清人委員, 大久保忠旦委員 (会長), 黒沢良夫委員, 朝田尚宏委員, 芝野三郎委員, 高橋啓子委員, 金枝右子委員, 北村里美委員, 三宅徹治委員 (副会長), 橋本透委員, 江島ゆり子委員, 久我臣仁委員
	欠 席 者	近澤幸嗣郎委員, 前橋明朗委員, 岩戸肇委員
	事 務 局	環境部長, 環境部参事, 環境部次長, 環境部副参事, 環境政策課長, 環境保全課長, 廃棄物対策課長補佐, ごみ減量課長, 廃棄物施設課長, 環境政策課エコエネルギー担当主幹, 環境部総務担当主幹, 環境政策課課長補佐, 環境政策課職員 4 名, 環境保全課職員 2 名
公開・非公開	公開	
傍聴者・記者	傍聴者 0 名, 記者 0 名	
会議概要	1 開会 2 会長挨拶 3 議事 (1) 第 3 次宇都宮市環境基本計画(素案)について ⇒ 了承 (2) 宇都宮市地球温暖化対策実行計画(区域施策編) (素案) について ⇒ 了承 (3) うつのみや生きものつながりプラン (宇都宮市生物多様性地域計画) (素案) について ⇒ 了承 4 その他 5 閉会	

発言要旨

議事 (1) 第3次宇都宮市環境基本計画(素案)について

会長	議事の(1) 「第3次宇都宮市環境基本計画(素案)について」 事務局より説明をお願いします。
事務局	— 資料に基づき説明 —
会長	以上の事務局の説明について、ご質問、ご意見があればご発言を。
委員	説明にはなかったが、基本計画素案59ページに、新しい取組として「気候変動への適応に関する普及啓発」が加わった。適応という点に切り込んでいくのは新しい視点である。どのように進めるのか 補足いただきたい。
事務局	温暖化防止対策には、温室効果ガスの根本的な解決に向けた対策である「緩和策」と対処療法のような「適応策」がある。ゲリラ豪雨に対応するための護岸工事や熱中症、デング熱への予防などが適応事例として挙げられる。 地球温暖化の影響が出てきていることを、チラシを市民に配布するなどにより、周知啓発を図っていききたい。
委員	まずはソフトから入るということによろしいか。ハード面での具体的な取り組みはどのように進めるのか。
事務局	雨水対策等のハード整備については他の部署で対応を進めている。環境部としては周知啓発などソフト対策を進めていききたい。
会長	温暖化問題に関連して何か御意見はおありか。
委員	「ごみの発生抑制の推進」のなかでリユース品の利用として「衣類再利用の推進」がある。 どのような形で実現できるか分からないが、高校の制服の再利用を提案したい。足利市では3年間使用した制服をボランティアがきれいにして、1セット3,000円で販売しているという取組事例を聞いている。 宇都宮市でも同様の取り組みができるか分からないが、再利用の一環として、制服バンクを立ち上げたいと考えている。
会長	事務局からご意見はあるか。
事務局	衣類の再利用のこれからの取り組みについてだが、現在、廃棄物減量等推進審議会において、一般廃棄物の「ごみ処理基本計画」の改定作業も「環境基本計画」の改定と並行して行っている。 まだまだ利用できる状態の衣類を焼却ごみとして廃棄されている事例があり、これらを減らしていきたい。使用できる衣類は再利用できるような仕組みを検討している。
会長	関連でご質問はおありか。

委員

衣類のリサイクルについて補足して質問したい。

日本ではまだあまり事例がないが、諸外国では、公共施設や大企業に回収ボックスを設置している。衣類に限らず、靴やバッグなども回収ができる。回収して国内で再利用するというより、途上国に送るなどの活動がされていると思われるが、このようなボックスを設置することで市民の意識を押し上げていくような施策を取り入れたらどうか。

また今後、全体的に市民一人ひとりの意識をどのように地球環境に向けていくかが大きな課題になると思う。これまで個人の環境が良ければそれで良いという個人主義だったものが公益性を重視するよう、市民の意識が変わるような情報発信や普及啓発の仕方が重要になる。私たち住んでいるのは自分の家だけでなく、地域、市、県、日本、地球であり、地球環境をどうやってみんなで守っていくのか。自分だけでない大きな視点、公益性の視点をもって市民一人ひとりが大切に思っていて守っていくように、学校教育での環境教育や人づくりに関する施策を重点施策として入れていただきたい。

公共交通に関しては、公共交通を重視していく中で、いかに利用者を増やすかが重要になる。利用者を増やすには利便性も必要である。車中心の社会になってきているので、乗りやすくして便利な乗り物にしていくことが必要である。これから進めていく公共交通の整備において、一日利用券の発行や駐車場から乗り継げるようにするなど、利便性を追求しながら公共交通を整備していただきたい。また、ゾーニングが必要だと思うので、そういった視点にも切り込んでいける環境政策であって欲しい。

会長

事務局案でも人材育成が重点に置かれているが、事務局からの補足説明はあるか。

事務局

資料1-1の裏面に重点戦略を掲載しているが、まず1番目に「もったいないの精神で行動する人づくり」として2項目を掲げさせていただいた。

1つ目は「環境学習の推進」であり、「環境配慮行動を实践できる人材育成」に取り組むとともに、本市独自の取組である「もったいない運動」の活動を広めていく。

2つ目に、「環境活動を担う次世代の人材育成」を掲げている。3歳から加入できる「子どもエコクラブ」があるが、学校でもこの「子どもエコクラブ」を活用した活動が活発化してきている。こういった仕組みを捉えて継続して人づくりができないかと考え、重点施策としている。

また、環境学習センターは人材育成の核となるので、これからも連携しながら引き続き環境学習を進めていきたい

次に、公共交通関係であるが、重点的な取組の中に「グリーンな交通システムの構築」を設定し、環境側面から捉えさせていただいた。本来、他部署で進行管理を行うものであるが、環境分野からも数値目標を設定し、しっかりと進行管理をしながら進めていきたい。

委員

環境教育に関しては、学校教育に取り上げられないと推進していけないので、教育部門との連携強化を図ってほしい。

また、まちなかに立地している中小企業に関しては、騒音や悪臭など環境に関する苦情が寄せられていると思うが、環境面を強く押し出していくには、住宅地域、商業地域、工業地域などをゾーニングすることが大切であると思う。ゾーニングはコンパクトシティの誘導にもつながっていくと思うし、クリーンな住環境になると思う。瑞穂野工業団地は小規模な工場を集積することで、まちなかの生活環境を良くし、工場には利便性を高め、企業が元気になる後押しを進めていると伺った。宇都宮も今後、このような視点が必要であると思う。こういった視点について、計画の中には反映されているのか。

事務局

教育については今後、強化していきたいと考えている。

仕組みとしては、「学校版環境ISO」を全小中学校で推進しているが、私立学校においても取組を進める予定である。引き続き強化を図っていきたい。

生活環境分野については、規制基準や法令等をしっかり守り、事業者への指導により清らかな水環境を守るなど、生活環境を守っていく。計画素案71ページに生活環境分野として、「大気環境の保全」や「水・土壌・地盤環境の保全」、「音・振動・臭気環境の保全」などを掲げており、発生源への対策を充実するなどしっかりと対応していく。

委員

「学校版環境ISO」については、学校管理の問題であって教育ではない。今しっかりと子どもたちに環境教育を行えば、おのずと30年後には自立して環境を意識して行動するようになる。「教育行政との連携」とはっきり記載した方が良い。

行政・市民・企業との連携とあるが、まずは行政内の連携が重要である。環境を守るといっても、福祉、まちづくり、商工、農政、土木など関係分野は様々である。教育行政を含めた庁内連携をいかにやっていくかが大変重要な課題であり、計画の実現のためには必要なことである。

身近にできることが地球環境を守ることにつながる。身近な自然である里山の保全をどうやるか。生物多様性とあるが、まず生物がいなければ多様性は守れない。公園整備だけでは生物多様性は守れない。地球温暖化防止についてもクリーンエネルギーに走りがちだが、木があれば炭素を吸収する。計画素案に里山の減少率を下げる目標をはっきりと記載した方が良いのではないかと。前回の審議会でも、平成5年ころから平成19年にかけて緑被率が7.5ポイント低下しているとの回答があったが、緑比率が低下しているのであれば数値をはっきりと示した上で、低下を食い止める。そして、最終的には植樹をするなどの取り組みをした方が良い。環境基本計画素案29ページの「環境都市像」において、植樹をしているイラストがあるが、植える前に、今ある自然や里山を今生かすことも重要である。それから植える意識を醸成し、緑の比率を高めていくことを数値目標として明確化した方が良いと思う。間に合わないかもしれないが、数値目標について検討いただきたい。

事務局

環境教育については、分野横断的な取り組みに向けて庁内でも検討してきたが、再度調整させていただきたい。

里山に関する数値目標については、「緑の基本計画」において進めているのでそちらと再度調整させていただきたい。

委員

数値目標についてはできるだけ、取り入れていただきたい。

会長

全般的な問題について他に意見はあるか。

委員 子どもの環境学習は重要である。道徳の授業に関しては民間の方が講師となり教えるという制度があると聞いたことがある。是非そういった制度を活用し、子どもたちに環境について教えていただきたい。「子どもエコクラブ」を活用して外部講師による環境学習を行っても良いと思う。

先日、報道で小学生がアルミ缶とスチール缶を自動分別するゴミ箱を考案したとあったが、環境学習センターで工作のような講習を企画すると、多くの方が集まると思う。気になったのは、「環境学習センターの開催講座等への参加者数」が、現状値と目標値との差が6年間で2%くらいしかない。産業廃棄物についても目標値、削減量が少ないと感じる。飲食店の残飯等については加熱などを行って肥料にできる。そういった取組を検討するもの良いと思う。

事務局 子どもたちへの環境教育、外部講師についてであるが、環境政策課では出前講座として授業等を行っているが、外部講師の活用も含め、講座内容の充実について検討していきたい。

会長 留学生から話を聞くと、日本の環境配慮のレベルの高さにびっくりするという。自分の国よりも30年くらい進んでいると学生から言われるが、さらに数値目標を高くしていこうというのがこの場だと思う。

委員 環境都市像のイメージ図について、前回までの資料と比べると、とても都市化された絵になったと思う。しかし、ぱっと見たときに街が広がっていてネットワーク型コンパクトシティという概念から少し外れているように見えたので、整理をしたほうが良い。例えば、ビルが田舎までつながっているの、少しコンパクトにした方がよいと思う。

また、2020年の環境都市像では、右上に「耕作放棄地の有効活用」とあるが、この図を見ると、耕作放棄地を住宅地に変えていくように見えてしまう。文章を読むとそういうことではないので、図を工夫した方がよい。

委員 私も前回に比べてずいぶん立派なイメージ図になったと思っている。先ほどの意見に加えたのだが、住みやすい町、ここにいればなんでもできる町という印象を与えるイメージ図にしてほしい。文化施設や運動施設、歴史的な施設等を加えたらどうか。そういった施設を散りばめることでますます良い町になるのではないかと。検討いただきたい。

また、計画の概要版にある重点戦略6つの関連を絵に落とすことで、より分かりやすくなるのではないかと。と思う。

事務局 ご意見を参考に市ながら、イメージ図については再度整理したい。

議事 (2) 宇都宮市地球温暖化対策実行計画(区域施策編)(素案)について

会長 次に議事(2)「宇都宮市地球温暖化対策実行計画(区域施策編)(素案)について」審議したいと思う。事務局より説明をお願いします。

事務局 — 資料に基づき説明 —

会長 宇都宮市地球温暖化実行計画素案について何かご意見はおありか。
全般的には議事(1)でも触れられているが、個別の具体的な問題についてご質問はあるか。

委員 「蓄電機能を生かした電気自動車の普及促進」とあるが、具体的に補助金などの施策を予定しているのか。

事務局	本市においては自動車依存率が高いため、まだ普及が進んでいない電気自動車に対する支援制度についても、今後検討していきたい。
委員	先日、地球温暖化防止活動推進センターの会議の際に、今後、リチウム電池が安くなるので、加速度的に家庭における蓄電池の設置が進むのではないかという話を伺った。電気自動車だけでなく、置き型の蓄電池についても広められるようお願いしたい。
事務局	家庭部門においては、各家庭における CO2 の削減が重要である。これまではエネルギーを創る太陽光発電設備に対しての補助を行ってきたが、これからは太陽光発電設備で創りだした電気を家庭で貯めて賢く使えるような動きにシフトしていきたいと考えている。今後は家庭における支援制度についても検討していきたい。
委員	環境基本計画では成果指標として「市民1人当たりの二酸化炭素排出量を平成25年度の3.2t-CO2から平成32年度までに2.8t-CO2削減する」とあるが、地球温暖化実行計画では、活動指標を世帯当たりで算出しているが何か区分けはあるのか。
事務局	環境基本計画の成果指標については、平成42年度までに温室効果ガスを27%相当削減とした場合、事業者総量を除く市民1人当たりでどれくらい削減する必要があるのかを示している。 実行計画では、施策「家庭における省エネ・低炭素化の促進」における活動指標として削減目標を示している。こちらも平成42年度までの温室効果ガス削減目標を27%とした場合、事業量分を除く世帯あたりの削減目標値となっている。
委員	現状値では1世帯で7.5t-CO2、1人当たり3.2t-CO2となると世帯構成員が2.3人となる。 32年度では、世帯で7.2t-CO2、一人当たり2.8t-CO2であると、割り返すと世帯構成員は2.5人となり1世帯の構成員数が増えることになるが、総合計画上世帯人数が増えると想定されているということでのよいのか。
事務局	総合計画において、人口が大幅に増える見通しは立てていない。 最終目標年度を平成42年度で設定しており、途中年度である平成32年度の活動指標を単純に割り返せないため数値をすぐ確認できないが、ご指摘の数値については改めて確認したい。
委員	市民が見たときに、「1人当たりの排出量」と「1世帯当たりの排出量」どちらで見たほうが分かりやすいか。ダブルスタンダードにならない方が市民は分かりやすいと思う。施策の内容によって実行計画は世帯を指標としたほうが後の進行管理がしやすいのかもしれないが、整合性はとっていただきたい。 民生部門、特に家庭への負担が多くなっていくように思える。資料2-1に「市民総ぐるみによるもったいない運動の推進」とあるが、活動指標の参加人数が少ない気がする。もっと進めなくてはいけないのではないか。ごみの13分別が開始になったときには自治会ごとに説明会を開いており、それくらいのことをして市民に説明をしていかなければ伝わらないのではないかと思います。努力していただきたい。

事務局	市民総ぐるみ運動については、実行計画素案18ページに、今回、基本計画や実行計画を策定するに当たり行ったアンケート調査の結果を記載しているが、それを見ると、まだ環境配慮行動に十分取り組めていない市民の方がおり、まだまだ推進すべき状態であるとする。活動指標については再度検討させていただきたい。
会長	4つの基本施策のうち、「Ⅰ 自立分散型で効果的なエネルギー利用のまちづくり」、「Ⅲ ごみの発生抑制や再使用の促進など循環型のまちづくり」、「Ⅳ 環境配慮行動にみんなで取り組むまちづくり」については意見が出たが、「Ⅱ 緑豊かなエコでコンパクトなまちづくり」についての意見はどうか。
委員	基本施策「Ⅱ 緑豊かなエコでコンパクトなまちづくり」に関連して、電気自動車のカーシェアリングの記載が見られる。アメリカあたりでは市民レベルでカーシェアリングが行われているが、日本人の感覚で言うと、文化的にまだ馴染みがないと思われる。市として企業等に働きかけるのか、どういった形で進めていくつもりか教えていただきたい。
事務局	現在、清原工業団地等の産業拠点に市外から出張等で訪れた人などが利用するような小型電気自動車のシェアリングを想定している。今までもカーシェアを検討したが、車の保有率が高い本市においては市民におけるカーシェアリングの普及はなかなか難しいと考えている。拠点性の特徴を生かしながら、交通網の再編などと合わせることで可能性について探っていきたい。
委員	<p>「環境基本計画」と「地球温暖化対策実行計画」を見て全体的に感じるのが、どのように実現するのか手段が見えてこない。</p> <p>2050年の目指す絵姿などは、審議会委員の意見もきちんと入っており、ここまでまとめるのはとても大変であったのは良く分かる。しかし、全てが現状でもできそうな施策事業の積み上げでしかないと感じる。宇都宮市独自の施策や全国的に取り上げられるような目玉になるような事業が見当たらない。</p> <p>また、諸外国では環境施策に関しても企業を巻き込んだ経済的手法を取ることが多いが、手段が具体的に見えないために、どのように民業を圧迫することなく環境を良くしていこうとしているのかが見えてこない。</p> <p>もったいない運動にしても、既に取り組んでいる人はともしっかり取り組まれている。そのような方たちにこれ以上の推進といってもどれだけ実効性があるのか疑問に感じる。</p> <p>これから環境を良くしていくためには、資金的に余裕のある企業を対象に考えた方がいいと思う。宇都宮市の企業に対する対策を見ていると、環境配慮行動にしっかり取り組んでいる企業を点数化して表彰しているだけなので、そのような企業は入札時に加点されるなど、環境面にしても法令順守にしても、良いことをしている企業が儲かるような仕組みを作らないといけないと思う。</p> <p>経済的手法として補助金を出すにしても、単に予算の範囲内という理由で金額を設定するのではなく、どれだけの補助金を出せば電気自動車の普及が図れるのかなど、経済的手法が有効に働く状況を研究した上で制度を構築してほしい。</p>

事務局	<p>今回の計画策定に当たっては審議会における中間答申や市民・事業者アンケートなども参考にしながら構築してきた。本計画の特色については出し方が弱かったかもしれないが、宇都宮市は、家庭における太陽光発電設備の設置件数が中核市において、倉敷市に次いで第2位となっており、このようなポテンシャルを生かした施策を今後も推進していくことが特徴となっている。</p> <p>また、経済との連携についても、環境基本計画における重点戦略5において、「環境と経済の連携による地域の環境資源を生かした産業や取組の創出」を位置づけ、環境技術を活用した産業創出や、地域資源を活用した新たな取り組みの推進などを考えているところであり、今後コストパフォーマンスも踏まえながら、どのように実施すべきか検討して行きたい。</p>
委員	<p>実行計画素案15ページに再生可能エネルギーの利用状況のグラフがあるが、これを見ると太陽熱の利用率が低い状況にある。エネルギー変換効率20%という太陽光発電に比べ、太陽熱は40%～50%と変換効率が高い。太陽熱は未利用分野でもあると思うので、本市における課題の中で、太陽熱の利活用にもスポットを当てていただきたいと提案したい。</p> <p>また、温室効果ガス排出量の目標値を27%削減と設定しており、国や県の目標値である26%削減を1%でも上回った点は、素晴らしいと思う。エールを送りたい。</p>
議事	(3) うつのみや生きものつながりプラン（宇都宮市生物多様性地域計画）（素案）について
会長	<p>それでは、次に議事(3)「うつのみや生きものつながりプラン（宇都宮市生物多様性地域計画）（素案）について」事務局から説明をお願いします。</p>
事務局	— 資料に基づき説明 —
会長	<p>何かご質問、ご意見などはおありか。</p>
委員	<p>場所がなくては生きものは生きていけない。川、森、農地をどうやって守っていくのかを考えていかないといけないと思う。例えば川であるが、昔は田んぼの中の用水路には、どじょうやフナなどの生きものがたくさんいたが、今はカエルすらいない。なぜかという、土木工事によりコンクリートの側溝を入れたため、カエルが流されてしまう。魚の数も減っており、外来種の話よりもまず生きものそのものが減っている。川であれば、護岸の形をうまく利用し、生きものが住めるようにするなどやり方があるので、まずは環境行政だけでなく、農業、土木、河川等の部門と連携を取るべきであると考えている。</p>
事務局	<p>「生きものつながりプラン」において、「多自然川づくりの推進」や「農地農村環境保全の推進」などの事業を掲げている。他部門とも調整を図りながらうまく進めていきたい</p>
委員	<p>基本となる計画であると思うので、具体的な取組を今後詰めていってほしい。</p>

- 委員 「生きものの成育の環境」とあるが、山間部ではイノシシの被害がある。去年ほどではないが、イノシシについては、いくら適正に捕獲しても減らない。イノシシ被害が減らないのはやはり環境の問題であると思う。間伐材を使ったバイオマス発電などの事業を行うことで、部分的な解決ではなく、全体的な解決を図れるのではないかと。環境を適正に守り、里山を保全すればイノシシは出てこないはずである。
- 今回計画に出てきたからには、間伐材や剪定枝等は燃やすのではなく、バイオマス発電に利用するなどしっかり実現してほしい。そうすれば数値目標も好転していくと思う。
- また、ごみの減量化は実現されているのか。今後どういった形で減量化を図るのか。分別だけで進めていくのではなく、そろそろ個別収集や、ゴミ袋の有料化など違った方法を打ち出さなければごみの減量を図ることはできないのではないかと思うがいかがか。
- 事務局 イノシシについては計画の中の事業として「鳥獣保護管理の推進」を掲げており、この中で取り組んでいきたい。
- 事務局 ごみの減量についての施策展開と現状については、ここ5、6年はほぼ横ばいである。平成26年度からは減少傾向にあり、本年度も昨年に比べ減少となっている。
- 計画の中では、分別の徹底強化や、焼却される生ごみ中の「もったいない生ごみ」といわれる賞味期限切れにより捨てられてしまった食品ごみを減らしていく取組を進めていきたい。
- 事業系のごみについては、これまでの施策が功を奏しており事業系ごみの量は減少傾向にある。
- ほかにも、新たな取組として行っている、剪定枝の資源化について、来年度は拡大してやっていきたい。また、今後様々な資源化についても検討していきたい。
- 委員 事業系ごみが減少傾向にあるというのは、ごみの収集が有料だからではないのか。事業系ではなく家庭系のごみは減っていないのではないかと思うがいかがか。
- 事務局 家庭ごみについてもほぼ横ばいの状況である。
- 会長 資料3-1 素案概要の中ほどに記載されている「生物多様性の恵みを持続的に享受できる社会」という部分については何か意見はあるか。
- 委員 成果指標について生物多様性の意味を知っている人を17.9%から75%にするとあるが、そもそも生物多様性という言葉を使わなければならなくなったのは、里山が減ったせいではないかと思う。生物多様性とはこういうものだと言葉で教えるものではなく、自然とふれあい、体験することで自然は大切だと感じるものである。生物多様性という言葉自体が重要なのではないということは認識しているのか。
- 事務局 委員ご指摘のとおり、まずは自然に親しむことが必要であると考えている。まず自然に親しみ、そのきっかけを通じて学び、次に保全の活動につなげる、という3段階のステップを考えている。

委員	<p>自然に親しむきっかけづくりとあるが、親しむ場がなさ過ぎると思う。</p> <p>家庭での除草剤なども影響していると思う。私の家の近くではキジも見かけることができる。除草剤をまかないように注意している。</p> <p>宇都宮市の郊外に出ると多少は生きものを見かけるが、市街地の田んぼでは魚もカエルもない。用水路にも一切生きものがない。魚も見かけないのは異常であると思う。</p> <p>宇都宮市には環境都市でナンバーワンになる意気込みで計画を策定してほしい。ほかの都市もナンバーワンになるつもりで策定しているので、宇都宮市もナンバーワンになる意気込みでつくらないと負けてしまう。現状の技術を積み上げるのではなく、中心的になる高い理念を掲げ、それを目指す過程で市民に分かりやすい数値目標を設定するのがよいと思う。</p> <p>ごみに関してもごみという言葉がなくす意気込みでやってほしい。全部資源であり、生ごみもペレットや堆肥化など様々な活用の仕方がある。それを行政が仕組化し、ごみという概念をなくしていく。宇都宮はごみが発生しないまちを目指すと掲げ、それを達成するためにやっていくことが重要である。現状の積み上げはほかの都市でもできること。宇都宮市には高い理念を掲げていただきたい。</p>
事務局	<p>目標達成に向けてがんばりたい。「うつのみや生きものつながりプラン」では本市の目指す将来像として「生きものと育みあうまちうつのみや」を掲げている。ひとつひとつの事業を推進していくことで、将来像に近づけていきたい。</p>
会長	<p>先日、学生主催の「親子で自然を親しむ会」を開催した。やってみると、特に母と子でやると効果があると感じる。もう少し長く続け活動を広げていけば、今の話のようなことも実現できるのではないかと思う。</p>
委員	<p>生物を維持するのは非常にお金がかかるものであるが、現在、栃木県では日光杉並木の杉を企業が購入という形で出資し、利回りで杉並木の整備をすることで環境を維持しているという例がある。宇都宮市でも事業者の方々に資金を出していただき、利回りを運用するという方法を提案させていただきたい。</p>
事務局	<p>「生きものつながりプラン」では杉並木の例のような事業の想定は無いが、今後5年後には指標も含め見直す予定であるので、プランの進捗状況をみながら検討してゆきたい。</p>

委員

先日海外視察に行った際に、環境都市といわれるドイツでは、LRT や車などの交通部分と人が憩う場所でゾーニングを行い、人が憩う場所の環境のためにみどりや公園を多くつくるなどして生きものを呼び込む工夫がされていた。

また、今まで車を進入させてしまえば駐車場になってしまう空間を、人間や自然に帰すという大きなプランを推進しており、そのために車を地下に通したり、LRT やハイブリッドバスなどの公共交通を利用できるようパークアンドライドのまちづくりを行い、車を規制した空間を作り出していた。車を規制した町は空気もきれいで歩きやすいまちになっていた。公共交通が通っているエリアは高層化しており利便性が高く、その他のエリアはみどりが多いまちづくりがされていた。環境という視点からも公共交通を生かし、誘導していくまちづくりを進めてほしい。

「環境都市像」のイメージ図においては2020年と2050年の姿が示されているが、その間30年の間が開くので、もう少し自然豊かになり、ゾーニングが進むとよいと思う。LRT についても現時点の計画のみの見せ方なので、本気で環境に人にやさしいまちづくりにするのであれば、LRT の線をもっと書き込んでも良いのではないかと。フランスでは20年間でLRT が1系統から6系統まで増えた例もある。これから私たちが目指すべき宇都宮の姿の特徴を捉え、夢のある見せ方をしてもよいのではないかと思う。夢を持てるような展開をしてほしい。

事務局

様々な意見に感謝申し上げます。今回3つの計画をご審議いただいたが、その中心となるのは「環境基本計画」である。今回の「環境基本計画」は、まちづくりや交通環境、経済活動と連携しながら環境都市を目指すというのが特徴となっている。また、まちづくりのゾーニングという点においては、ネットワークコンパクトシティやLRT を機軸とした公共交通を生かしてクリーンなまちづくりを進めていくことを目指している。公共交通等については他の部門での計画であり、ややもすると“人”の視点だけで書かれているが、環境部門では“人と自然あるいは生きもの”が連携する計画を立てて行くのが役割であると考えている。ネットワーク型コンパクトシティを進める中、人と拠点と自然がうまく調和できるようなまちづくりにしてほしいというご指摘を踏まえ、もう少し分かりやすく将来のイメージ図を示していきたい。宇都宮市の恵まれた自然環境を生かしながら、まちづくりと連携した環境都市となるよう計画を策定してまいりたい。

委員

「環境基本計画」、「地球温暖化対策実行計画」、「生きものつながりプラン」全てにおいて言えることだが、各事業の進行管理体制について、縦割り行政の弊害をなくしていくのが重要と考えるが、庁内体制をどのように構築していくのか伺う。

事務局

進行管理体制については、今回初めて重点戦略推進プロジェクトとして企画会議を設けている。進行管理をするチームを設置し、しっかりと管理していきたい。

会長

議事(3)について以上でよろしいか。
ほかにご意見がなければ、議事は終了する。